<聖典とビージャマントラの説明>

よく知られている聖典には、下記のものがあります。

◆キリスト教：聖書

◆仏教：大蔵経トゥリピーターカ Tripitaka

（参考）『蔵経』『一切経』『三蔵』ともいい、仏教聖典で，仏陀の説いた教え (経蔵) と戒律 (律蔵) ，ならびに弟子たちの教法に対する研究 (論蔵) を含んでいる。

◆イスラム教：コーラン

◆インドの聖典

①　ヴェーダVeda：ウパニシャッド（ヴェーダの一部）

②　ダルシャナDarsana（哲学）：

１．サーンキャ

２．ヨーガ

３．ヴァイシェーシカ

４．ニヤーヤ

５．プルヴァミマンサ

６．ウッタラミマンサ (ヴェーダと同じ)

③ カッヴィヤKavya（叙事詩）：マハーバーラタ、ラーマーヤナなどがある

④ プラーナPurana：バーガヴァタム（クリシュナの聖典）

⑤ タントラ Tantra：プルシャとプラクリティ、シヴァとシャクティが入っている

**＜ビージャマントラ＞**

ビージャ・マントラ（Seed、種のマントラ）は，とても短いマントラで特別な意味はありません。

例えば、ガネーシャのビージャ・マントラは、ガン、ガン、ガネーシャ。

どの神様も、ビージャ・マントラを持っています。ラン、ラング、シャンなど沢山あります。

また、ビージャ・マントラは、詩人が詩を作るように言葉を考えて作ったものではなく、

聖者がある神様のことを瞑想する最中、心に自然にあらわれ出たのがビージャ・マントラなのです。

ヴェーダの中には、Omが入っています。

しかしOmはマントラですがビージャ・マントラではありません。

他にもビージャ・マントラには、Hrim, Aim, Yan, Gan など、沢山あります。

これらは、タントラの実践の時、実践する人の心の中にあらわれました。

イニシエーションの時授けるマントラには、ビージャ・マントラと、ある神様のマントラが組み合わされています

　例：Om Namaha Sivaya

Om Hrim Karikayai Namaha

また、協会でホーマ（火の儀式）を行うときのシュリー・ラーマクリシュナのマントラは

*Om Hrim Sarva Deva Devi Swarupaya Sri Ramakrishanaya Namaha*

（すべての神、女神の本性である、シュリー・ラーマクリシュナに敬礼します）

ホーリーマザーの生誕祭で唱えるマントラは

*Om Aim Hrim Sarva Deva Devi Swarupinyai Sri Saradadevyai Namaha*

<語句解説>

Om：ブラフマンのシンボル

Hrim：マハーマーヤー（母なる神）、マザーカーリー（シャクティ）のビージャ・マントラ

Aim：マザー・サラスワティのビージャ・マントラ

Swa：自分

Rupa：形

Swarupa：本性

Swarupinyai：Swarupaと同じ　文法の関係で変化

Saradadevyai：deviが文法の関係で変化

**＜「Om Hrim ritam」の説明＞**

この曲はOm, Hrim, ritam（Aim）の３つの単語からできています。

Om：ブラフマンのシンボル

Hrim：ホーリーマザーのビージャ・マントラ

Aim：シュリー・ラーマクリシュナのビージャ・マントラ

このシュリー・ラーマクリシュナの賛歌を作るとき、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、ホーリー・マザーとシュリー・ラーマクリシュナのイメージを合わせて作りました。

シュリー・ラーマクリシュナの本性は、ブラフマンとシャクティですが、そればかりではなく、プラクリティやシャクティも持っています。

また、ホーリーマザーには２つの姿があります。

① ジャガダットリー：宇宙の女神

② サーラダ：サラスワティ（弁天様）

ホーリーマザーがラーマクリシュナより力強いといわれているのは、マザーの中に

ブラフマンとシャクティとサラスワティが存在するからです。

このように、プルシャとプラクリティ、ブラフマンとシャクティは一緒だという意味で

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはOｍとHrimの両方を歌詞に入れたのです。